

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172101228
法人名	野原電研株式会社
事業所名	グループホーム 柚子
所在地 (電話番号)	〒 503-0534 大垣市外渕二丁目79番地 (電 話) 0584-87-1911

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年6月27日

## 【情報提供票より】(平成 19 年 6 月 11 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有( ) 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 240,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有( ) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 6 月 11 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山中クリニック(内科、整形外科)
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム柚子は、大垣市街地ののどかな田園地域に建つ明るい雰囲気をもったホームである。建物にはデイサービス、ショートステイサービスが併設されており利用者と職員が明るい日差しの中で和やかなやり取りをしている。デイの社交場となっている足湯の隣にホームの入り口があり、ホーム内は開放感と明るさ、穏やかさを感じる。開設して1年半あまりで利用者とも馴染みになったところであろうか利用者の笑顔が印象的であった。地域になじむことの重要性を感じつつもこれからの課題を一つひとつ解決して進めようとする管理者、職員の前向きな姿勢が伝わってくる。これからの取り組みを楽しみに期待したいホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価実績なし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	主任、副主任を中心にして全職員が見直しの取組みをした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では報告や情報交換だけでなく意見交換がなされているがメンバーは現段階では自治会長、家族にとどまっている。市町村との連携を深める重要性を理解し、その時々相談をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の安心感のために金銭に関しては1ヶ月に1回報告し、面会時には近況を伝えている。家族の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かすため、玄関、ホームの居間に意見箱を設置したり、第三者の窓口を作り、ホームだけでなく外部にも言える機会を作っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員となるための取組みとして、自治会に加入しているが現在はその他の地域活動の参加はない。

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	総合方針として同じ建物の中にある居宅介護事業のデイ、ショートとともに共通理念として掲げられているが抽象的でイメージがつきにくい。	○	地域密着型サービスの役割を考えながらその人らしく生きられるための支援がホームとしての理念として表れることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が共有し、日々の実践が理念に基づいたものにするために理念を話し合う機会をもうけていない。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員となるような取り組みとして、自治会に加入しているがその他は地域活動の参加がない。	○	ホームは地域の一員となるような積極的な取り組みを。地域住民として、自治会のみならず町内会、地域活動に参加して地域住民との関係を築いていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	主任、副主任を中心にして全職員が見直しの取り組みをした。	○	今回の評価を、ケアの保持・向上に活かそうという前向きな姿勢である。全職員が評価の意義を理解することで具体的な見直しの取り組みにつながることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や情報交換だけでなく意見交換がなされている。メンバーは自治会長、家族にとどまっている。	○	地域の理解と支援を得る貴重な機会であるので市町村の担当者にもメンバーとして参加していただくよう働きかけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ出向いて、その時々相談をしている。	○	市町村担当窓口にもホームの実情やケアサービスの取組みを伝える積極的な働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭に関しては1ヶ月に1回報告している。また、家族の面会時には近況を伝えている。一人ひとりのアルバムがあり、おりに触れた写真を入れてご家族に伝えている。	○	家族等の安心と信頼のためにはきめ細かい、やりとりが鍵。あらゆる機会を通して情報提供が必要である。ご家族が訪ねてきた時だけでなくホーム便りなどを作成して定期的に報告することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かすため、玄関、ホームの居間にも設置している。また、外部にも言えるよう第三者の窓口を作り、それを重要事項説明書にもホームだけでなく外部にも言える機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動によって利用者の不安を招かないよう異動はショートステイやデイサービスで関わりのある職員がグループホームに異動するよう配慮されている。また、異動の際には利用者やご家族にも説明をして納得を得るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の確保と向上を図るため、職員の学びの機会を必要に応じて作っている。研修後は職員間で共有の場をもうけている。年間計画は立てず必要に応じて行っている。	○	これからは年間計画を立てるなどして職員の育成の段階的、計画的な学びの体制の検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に入会している。また、管理者や職員が個人的に地域の同業者と必要に応じて連絡、交流を図り、相互訪問等をしてケアサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ建物の中にあるショートステイサービスを利用してもらい、馴染みの関係ができてからサービス利用するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ときには「お母さん」「お父さん」という呼び方をしたりして一つの家族のような関係をつくり、ホーム敷地内にある畑作業のときなどでは作物の植え方などを教えてもらうなど利用者は介護される立場のみでなく職員と支えあう関係で暮らしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	花好きの方にはその人らしい暮らしのために描いた絵を展示して他の利用者や家族に見てもらえるような機会をもうけることを検討して実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は主任と家族が相談して、職員とともに考え実践している。計画作成時は家族の同意を書面にも残している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを行い、状況の変化で介護計画の見直しが必要なときは職員間で話し合い、家族に相談あるいは結果を報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のショートステイサービス、デイサービス利用者とデイサービスを活用し、職員と利用者の馴染みの交流をしている。足湯の場などで自然な形でデイの利用者とも交流できるようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望されるかかりつけ医の受診介助をしている。協力医は2週間に1回、必要時の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだホームの方針の共有のための取り組みはしていないが重度化、終末期の対応についてはホームの対応を利用者の意向、家族やかかりつけ医と話し合う必要性を理解している。	○	家族、かかりつけ医との話し合いをすすめることは勿論のこと、職員間での十分な話し合いをしたうえでの取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの背景や生活歴を理解したうえで言葉かけや対応をしている。また、目線を合わせた受容と傾聴を心がけて対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活に一連の流れはあるものの、その日の希望を聞き、一人ひとりの思いを大切に希望する過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は入居者とメニューを決め、一緒に作っている。時にはホームにある畑で収穫した野菜を使うなどの取組みも行っている。	○	職員もご利用者と一緒の食事で楽しむ事を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況に合わせて希望を取り入れているほか、入浴のない日は足湯の利用をさせていただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の花の世話を楽しんでいる方、居室や食堂にはご利用者の趣味で描かれた絵が飾られている等個々の役割や楽しみごとの場面が作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に一度の外出は計画されているがその日の希望に沿っての外出はできていない。	○	その日の外出について検討中ということで期待する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段は開放されている。ショートステイ、デイサービスが併設されていて、送迎時間帯については車の出入りがあるため事故防止のためにグループホームの出入り口のみ施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や近隣住民、自治会に非常時の応援を依頼している。避難訓練はまだ行っていない。	○	消防署や地域住民の協力を得て避難訓練を実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事形態や摂取方法が工夫され、摂取量も記録され、栄養士による栄養管理もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居間と食堂に花が飾られ、廊下も広い。椅子やテーブルも入居者に合わせて様々な物が用意されていて、車椅子の方にも食事時にはキャスター付きの座りやすい椅子が用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとりの好みに合わせて物が配置され、使いやすいように工夫されている。		